



KANSAI
UNIVERSITY

CTL

Kansai University Center for Teaching & Learning

Newsletter

関西大学 教育開発支援センター
ニュースレター

June 2019

vol. 30

授業アンケートの改善に際して

教育開発支援センター長 関口 理久子



2020年度から、「授業評価アンケート」が「授業アンケート」へと改善される。

関西大学の「授業評価アンケート」は、2000年度から実施され、2011年度からは現行アンケートとして定着してきた。現行アンケートは、教授法への評価としては役立つものであるが、学生自身が自分の学びについて評価する項目、例えば、授業以外での学修時間、シラバス等に示した到達目標にどのくらい達したと感じているか、授業が自分にとって意義あるものだと感じたかなどの、学生自身が自分の学びを評価する項目を追加する予定である。併せて、全学部共通項目だけでは尋ねきれない点を学部独自項目として作成し、また実施方法をweb化するという改善が予定されている。

教育開発支援センター（CTL）では、各学部選出のCTL委員を中心に各学部のご協力を得て、2018年度秋学期から改善

案を作成してきた。その過程で難しいと感じた点が幾つかあるが、その一つは、学生自身が自分の学びを評価する項目の尋ね方である。私自身の専門領域は実験心理学なので、どちらかというと課題や検査を用いて測定することが多い。例えば、「記憶力」を例に挙げてみる。まずは、記憶力を測定する様々な検査・課題を施行し、その人の「記憶力はこのくらいである」というパフォーマンスの結果を得るのである。そして、本人に自分の記憶力について尋ねる項目を複数用意して、自分が自身の記憶力を評価するのである。しかし、この客観的な評価と主観的な評価は、しばしば食い違う。特に、「あなたの記憶力はどのくらいですか」となどという曖昧でおおざっぱな尋ね方をすれば、記憶力に問題がなくても「悪い」と答えてみたり、衰えがあっても「ほぼ大丈夫」と答えるのである。授業アンケートの質問項目でも同様であ

る。例えば、「この授業について主体的に学びましたか？」という質問項目が共通項目として提案されており、選択肢は「①主体的に学んだ」～「⑤主体的に学んでいない」の選択肢が用意されている。しかしながら、これを尋ねられた学生は「主体的に学ぶ」という耳慣れない表現に困ってしまうのではないだろうか。これが「意欲的に学ぶ」とか「積極的学ぶ」ならまだわかるが、「主体的に学ぶ」というわかりにくい表現だと答える側が勝手に自分で解釈してしまう余地を大きくしてしまう。この点については、現在CTL委員会で検討中である。

今年度の秋学期は新アンケートのパイロット期間であり、いくつかの授業科目では試行的に新アンケートを実施する。また、それまでに、CTL委員の先生方とともに実施案を完成させる予定である。まだまだ検討課題は多いが、よりよい新アンケートが完成することを期待している。

フォーラム・セミナー報告

非常勤講師を対象とした「関西大学における FD・授業支援説明会」を開催しました

日程：2019年3月22日(金)10:00～12:00
場所：千里山キャンパス 第2学舎1号館5階 A503教室

3月22日(金)に開催した「関西大学における FD・授業支援説明会」は、2019年度に着任された非常勤講師を対象に、本学のFDおよび授業支援について理解を深め、かつそれらを積極的に活用し、本学での教育活動に役立ていただくことを目的とする説明会です。

冒頭、関口教育開発支援センター長(社会学部教授)より、授業評価アンケートの実施やFDフォーラムの開催、現在進行しているプロジェクト(アクティブ・ラーニング、成果指標検討、等)、ライティングラボ、ラーニングモダリティの運営等、教育開発支援センターの主な活動を紹介しました。

加えて、教育開発支援センターで開発した「レポートの書き方ガイド」(学生向け)や学生の「書く力」を評価するルーブリック(指標)等の教育支援ツールを紹介し、積極的に活用いただくよう呼びかけました。「レポートの書き方ガイド」やルーブリックは、ライティングラボのHPからダウンロードできます。
(関西大学ライティングラボHP「役に立つ資料」
<http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/labou/useful/index.html>)

説明会後半では、授業支援グループの担当者から、インフォメーションシステム(ポータルサイト)や関大LMS(Learning Management System)の使い方、休講・

補講の手続きの仕方、授業支援の内容について説明しました。

全体で2時間にわたる長時間の説明会でしたが、約70名の非常勤講師の先生方に参加いただきました。

(教育開発支援室 川瀬友太)



会場の様子

関西大学北陽高等学校で文理融合型アクティブラーニング「STEAMワークショップ」を行いました

日程：2019年3月25日(月)・28日(木)
場所：千里山キャンパス 第2学舎2号館3階 C302教室

関西大学北陽高等学校の新基軸となる新たな学びの取り組み、「教育推進部と関西大学北陽高等学校の連携講座(交渉学・クリティカルシンキング・ライティング)」の一環として、3月25日(月)と28日(木)に国立台南大学のコンピューターサイエンス



STEAMワークショップの様子

学部(施如齡教授)と研究室の研究生をお招きし、文理融合型のSTEAM(Science, Technology, Engineering, Arts and Mathematics)ワークショップ(交渉学)を行いました。小学生から高校生までを対象としたSTEAMワークショップ・プロジェクトは、2018年度台湾科学技術部(MOST)の科学研究費によるもので、台湾の国立台南大学(施如齡教授)、関西大学(山本敏幸教授)、スウェーデンのMalmo University (Daniel Spikol教授)の3カ国の国際共同研究プロジェクトです。

関西大学北陽高等学校の生徒を対象に行ったワークショップでは、15世紀頃のスパイスをめぐる植民地争いを行うヨーロッパの

アジア展開の情勢をテーマとしました。それぞれの国の経済力と交渉力を競うゲームフィクションを活用した教材を使って、プログラミング(パソコンを使っての貿易船の操縦)、交渉学を涵養するワークショップでした。

高校生は世界史、世界情勢、国家間交渉、経済、数学、プログラミング、コミュニケーションによる合意形成等の様々な科目を融合して学ぶアクティブラーニング型STEAMでの学びを初めて体験しました。参加した関西大学北陽高等学校の生徒は「初体験の文理融合型STEAMの学び」にわくわくしている様子でした。

(教育推進部教授 山本敏幸・
教育推進部准教授 岩崎千晶)

TA研修・LA研修を実施しました

日程：2019年3月25日(月)・27日(水)
場所：千里山キャンパス 第2学舎2号館2階 C204教室

2019年度春学期に向けて、3月25日(月)、27日(水)に毎期恒例のTA・LA研修会を開催しました。この研修を担当して、今年で9年目になります。新規勤務と継続勤務の学部生・大学院生が混じっているTA・LA研修では、心構えや役割などの毎年共通した部分と、参加する学生の関心や学習のニーズに応じて毎回異なる

トピックを取り上げるように配慮しています。研修内容は、TA・LAといったピアチュータリングや学習支援に関連する研究が盛んな北米を中心とした洋書や学術論文を参考に構成を考えています。熱心に参加してくれるTA・LAによりよい内容の研修を提供できるように心がけています。先生方もご関心があればぜひご見学・ご参

加ください。お待ちしております。

(教育推進部准教授 岩崎千晶)



TA研修の様子

スポーツ・フロンティア(SF)入試合格者を対象に 「文書作成能力向上講習会」を実施しました

日程：2019年3月29日(金)15:45～17:00
場所：千里山キャンパス 第4学舎3号館4階 3401教室

3月29日(金)に、この春関西大学に合格したSF入試入学生を対象とした「文書作成能力向上講習会」を実施しました。この講習会の目的は、入学後に待ち受けているレポート作成の不安や戸惑いを取り除くことです。そこでレポートの書き方のレクチャーに加えて、レポート作成で困った時に相談を受けることができるライティングラボや、自主学習に活用できる

eラーニング教材などを紹介しました。また、今回の講習会は入学前オリエンテーションの一環であることを考慮し、講師と受講生のコールアンドレスポンスや受講生同士のワークを通して、大学の学びに対する不安が期待に変わるよう努めました。この講習会は入学後も春学期2回、秋学期3回、継続して実施します。

(教育推進部特別任命助教 多田泰紘)



講習会の様子

学びを支える「学修コンシェルジュ制度」を導入しました

教育推進部では、文部科学省補助金(AP)事業「21世紀を生き抜く考動人<Lifelong Active Learner>の育成」において、学修コンシェルジュ研修プログラムを開発し、教務系職員の学修支援

能力の向上に資するOff-JT研修を実施してきました。その後、全学的なSD研修プログラム(教員・職員・学生参画型研修)に発展させ内容の充実を図っています。

上記導入にあたり、事前研修を実施する中で、学修環境の充実を図る上では、職員が積極的に学生の学びを支える場を創出する必要性のあることが確認されました。

そこで、4月3日(水)に開催された教育後援会主催の「新入生歓迎の集い」に職員が学修コンシェルジュとして参加し、①大学のサー

ビスやプログラムの紹介、②学生生活を送る上での悩み・相談への初期対応、③4年間の学びを充実させるためのアドバイス等を行いました。

職員にとっては、他部署の取組内容を学ぶ機会になるとともに、学生と接点を持つことで学生の抱える問題を素早くキャッチアップし、よりよい学修環境の実現に寄与することで、職員としての資質向上、モチベーション向上につながることを目的にしています。

今後は事前研修内容の体系化、事後報告会の実施等を企画してまいります。

(教育開発支援室 土井健嗣)



「新入生歓迎の集い」の様子

今期もFD Caféを開店しました

日程：2019年4月17日(水)15:00～17:00
場所：千里山キャンパス 第2学舎1号館1階 第1会議室

4月17日(水)に恒例の“FD Café”(新任教員研修会)を開催しました。新年度開始早々の気ぜわしい時期でありましたが、12名のご参加を得ることが出来ました。例年は土曜日に開催していますが、より多くの方が参加しやすいように、今回は水曜日に開催しました。

冒頭、誤解と混乱が蔓延しているアクティブ・ラーニングの正しい捉え方についてのミニレクチャーがあり、教育パラダイムから学習パラダイムへとシフトしつつある今、教師は何をすべきかを考え続けていく必要があることを共有しました。その後のグループワークでは、着任後の

授業経験を通じて、「うまくいっていること、続けていきたいこと」や「課題に感じていること、解決できればよいこと」をそれぞれのグループで話し合ったのち、全員で共有しました。学生の名前と顔を一致させたいという願いを多くの教師が持っていることが印象的でした。関口教育開発支援センター長からは、シラバスの重要性や作成のポイント、授業評価アンケートの実施、組織的FDの展開についての紹介がありました。最後に関大LMSの使い方のインストラクションがあり、2時間にわたるプログラムを終えました。参加者からは「他学部の先生方

の話を聞いて良かった」、「ベテランの先生方の工夫を知ることができた」、「LMSの使い方が分かった、有益な情報を得た」といった声をいただきました。

(教育推進部教授 三浦真琴)



FD Caféの様子

レポートの書き方ワンポイント講座を実施しました

ワンポイント講座は、レポートの書き方をテーマとする、学部生を対象とした学習支援イベントです。今年度は、新たにノートテイキングの方法と理工系学生を対象とした実験レポートの書き方の特別回も合わせ、8種類の講座を4月18日(木)から6月7日(金)に開催しました。本講座は、事前申込不要、途中入退場自由、昼食をとりながら気軽に参加できるのが特徴です。各回平均約30名前後の参加者があり、講座後に毎回実施しているアンケートによると、参加者はほぼ1年

次生、「本日、参加していかがでしたか?」という質問に対しては、「とても満足」「満足」という回答が9割を占める結果となりました。秋学期も同講座を開催予定です。

本講座の記録動画・資料はライティングラボのホームページで閲覧いただけます。

<http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/labo/onepoint-advice/index.html>

(教育開発支援センター
ライティングラボ・アカデミックアドバイザー
寺島紀衣)



レポートの書き方ワンポイント講座

教育開発支援センターからのお知らせ

ライティングラボのSNSをフォローしてください

ライティングラボでは、「レポートの書き方ワンポイント講座」のスケジュールなど、最新情報をSNSで発信しています。ぜひ、フォローしてください。発信情報のシェアやリツイートも大歓迎です。

(教育開発支援室 西脇菜穂子)



Twitter @writinglabo



Facebook 「関西大学ライティングラボ」で検索



Instagram @kuwlabo



LINE QRコードをお読み取りください。→



書籍紹介

『大学におけるライティング支援 ―どのように〈書く力〉を伸ばすか―』が出版されました

ライティングラボの活動が書籍になりました。2012年度から2016年度までの間にライティングラボが津田塾大学ライティングセンターと連携して取り組んだ成果を中心に、個別指導、正課外講座、eポートフォリオやルーブリックの開発、ICTを活用した支援、正課教育との連携などを余すところなく掲載しています。教職員と院生チューターが「書く力」の指導・支援

に向けて、粉骨砕身した足跡を少しでも感じていただければ幸いです。

教育推進部 准教授 岩崎千晶、教育推進部 特別任命助教 多田泰紘、ライティングラボ・アカデミックアドバイザー 寺島紀衣が、執筆者となっております。

(教育推進部准教授 岩崎千晶・
教育推進部特別任命助教 多田泰紘・
教育開発支援センター ライティングラボ・アカデミックアドバイザー 寺島紀衣)

『大学におけるライティング支援
―どのように〈書く力〉を伸ばすか―』
関西大学ライティングラボ・
津田塾大学ライティングセンター(編)
A5版、240頁
定価 本体2,400円+税(東信堂)



From CTL事務局

平成と令和をまたいだ大型連休も終わり、気付けば季節もう初夏。私自身、新規採用事務職員として授業支援グループに配属されてから、気付けば10年が経った。十年一昔と言われるが、時代の流れを考えるとなかなか

か感慨深い。

現場の第一線である授業支援ステーションで勤務していると、毎週顔を合わすSA、毎月勤務報告に来るTA、宿で親しくなるLA、様々な学生参画の現場に触れるたびに私自身も仕事のやりがいを感じ、年度が変わる度にどのような学生スタッフとの出会いがあるのか

毎回心が躍る。

令和の時代はどんな時代になるのか。学生との歳の差は開いていくばかりだが、同じ志を持ち、新しい時代で活躍するであろう若い芽と寄り添い、共に学んでいける存在でありたい。(愛)



KANSAI
UNIVERSITY

関西大学 教育開発支援センター Kansai University Center for Teaching & Learning

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 TEL: 06-6368-1513 FAX: 06-6368-1514

<http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/index.html>

発行日/2019年6月27日 編集・発行/関西大学 教育開発支援センター